

2018 Summer Medical Education Institute student workshop in UH-JABSOM

研修報告書 # 1

2018年8月20日から8月24日にわたってハワイ大学医学部で行われたワークショップでの内容を報告します。今回残念ながらワークショップ中にハリケーンがハワイを直撃し、研修3日目の水曜日から5日目の金曜日にかけて学校が休校となってしまいました。そのため、ワークショップの内容がPBL、呼吸音の聴診、禁煙指導、模擬患者との医療面接のみとなってしまいました。研修は佐賀大学の学生を含め、弘前大学、横浜市立大学、東京大学、日本医科大学、高知大学、岡山大学、大阪医科大学から来た生徒計27人とJABSOMの生徒数名がPBLのサポートを行い進められました。講義、実習、PBLはすべて英語で行われました。

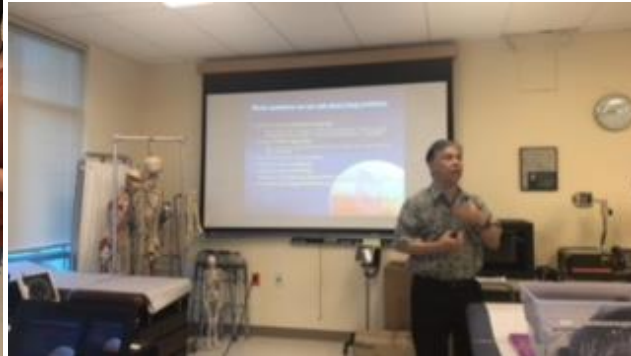
PBL

月曜日、火曜日は6~7人のグループに分かれてPBLが行われました。1つ目の症例は心筋梗塞、2つ目の症例はうっ血性心不全でした。進め方は佐賀大学で行っているものとおおむね一緒でした。日本で行っていたPBLと異なっていたのは、一つのシナリオを勧めるごとにいくつものLearningishをあげていくところでした。たくさん挙げることによって一つの症例から更に知識を広げることが出来るのだと思いました。Step2ではコンピューター室でLearningishからピックアップした内容をそれぞれ調べてパワーポイントにまとめました。身の回りにある資料がすべて英語で、それを図やグラフを用いて英語でまとめなければならず苦労しました。日ごろの医療英語の重要性を改めて実感しました。英語で書かれた論文や資料をいかに素早く大事なところをもらさずに読み込むかが問われました。日ごろから英語で書かれた医療関連の文章を読み、力をつけていかなければと思いました。



呼吸音の聴診

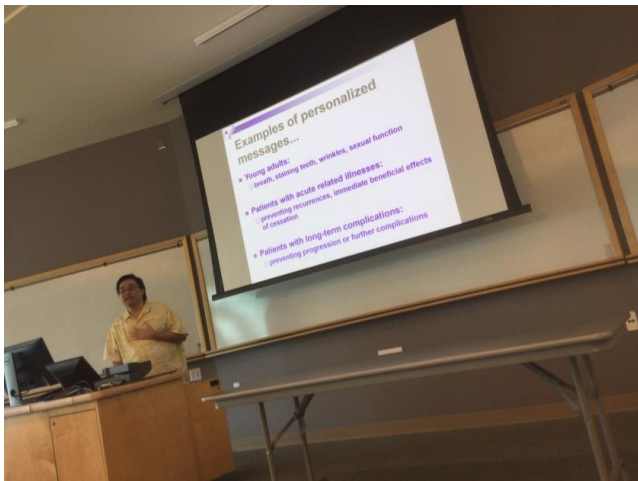
シミュレーターを用いた呼吸音の聴診、生徒同士で医師、患者役に分かれて聴診を行いました。自己紹介から入り、問診、聴診を行うのですが、患者への心配りや、患者に対して医師はどの位置に立って診察を行うのが適切なのか、ノックの仕方、握手の仕方といった細かいところまで指導がありました。



禁煙指導

禁煙指導は日本では学んでいなかったのが初めての試みでした。5A s と言い、”Ask” “Advise” “Assess” “Assist” “Arrange follow-up”という 5 つのステップで行いました。

最終的には実際に模擬患者と個室で面接を通して禁煙指導を行い評価されました。喫煙が体に与える害を伝え、その患者にあった治療法を共に考え、定期的なフォローが必要なのだということを学びました。



ワークショップを通して

今回は様々な大学の生徒達と英語での PBL を通し、自分の知識不足や英語力のなさを実感しました。また講義や実習を通して患者さんとの接し方といった医師患者間のコミュニケーションについて学ぶことが出来ました。その他毎朝先生が話してくださるユーモラスでやる気を引き出させてくれる話や、ハワイの文化を学び、日本では体験することのできない貴重な体験をすることが出来ました。ハリケーンの影響で全てのプログラムを行うことが出来なかったのがとても心残りです。

また、5 日間を通して JABSOM の生徒たちがとても良くしてくれました。自分たちで行くことが出来ないような場所に連れて行ってくれたり、毎晩一緒にご飯を食べたりして仲を深めることが出来ました。他大学の生徒たちともそれぞれの大学の話をし、私もより勉学に励まなければと刺激になりました。

5 日間という短い期間でしたが、学ぶことはとても多く充実した日々を送ることが出来ました。最後にこのような機会を与えてくださった国際交流事業実施部の方々、JABSOM の先生方、サポートしてくださった教育部門の先生方に深く感謝を申し上げます。

2018 Summer Medical Education Institute student workshop in UH-JABSOM

研修報告書 # 2

私は2018年8月20日～8月24日までハワイ大学医学部(JABSOM)において行われたワークショップに参加してきたため、報告いたします。

今回のワークショップは佐賀大学から3名、弘前大学、高知大学、大阪医科大学、岡山大学等からの1～6年生合計23名で行われました。

今回ハワイでは大型ハリケーン『レーン』が接近しており、その影響で5日間のワークショップの予定が3日目の午前中で終了してしまいとても残念な結果となってしまいました。しかし3日間という短い間でも、問診による病歴聴取、現地の模擬患者を目の前にした禁煙指導、胸痛や息切れに対する臨床推論等多くのことを学ぶことができました。以下、詳細をまとめます。

1日目

Dr. Sakai による Morning story から始まりました。Morning story では Dr. Sakai の様々な体験談が語られました。話は楽しいものから感動するものまで様々でしたが、全て医師を志すにあたってのモチベーションを高めるようなものばかりでした。その後、JABSOM の学生による大学構内の案内がありました。大学は病院が併設されていない分、佐賀大学に比べて少しこじんまりした印象を受けましたが、開放感があり学生が勉強に集中できる環境が整っていました。

構内の案内の後、1グループに学生チューターが1～2人ついて PBL が行われました。佐賀大学で行われているものと基本的に一緒でしたが、OLDCHARTS (Onset Location Duration Characteristic History Aggravating/Alleviating Radiation Timing Severity) に沿って Need to know を細かく挙げる点や、Hypothesis の理由をグループで検討する点では、ハワイ大学の学生に比べて自分の知識の乏しさを実感しました。

身体診察の実習では心音・呼吸音の聴診を行いました。患者と対面する際まず笑顔で患者さんの手を握って挨拶をするという点は、患者との信頼関係に重きを置くハワイの文化が現れており、日本とハワイの文化が医療にも反映されていることを感じることができました。

2日目

2日目はまず禁煙指導の基本について Dr. Sakai と学びました。禁煙指導には5A (Ask Advise Assess Assist Arrange follow-up) という5つのステップがあり、その流れに沿って模擬患者に扮した学生たちと練習をしました。患者さんにはなぜタバコを止められないのか、止めたい意思はあるかなど1人1人違う背景があるため、それらを英語で聞き出し適切なアドバイスをするのはとても難しかったです。学生達も、ここはいいアドバイスでもう少しここを詳しく聞いたらいいよ等、練習後にフィードバックをしてくださりととても助かりました。

3日目

午前中は学生同士で肺疾患の問診・聴診についての講義と練習を行いました。

午後は前日に練習した禁煙指導を実際に模擬患者を目の前にして行いました。模擬患者が待っている部屋にノックして医師が入室し握手をするという流れは日本とは全く逆で少し戸惑い緊張しましたが、前日に Dr. Sakai がおっしゃっていた「患者さんの前では背筋を伸ばし、自信を持った態度で接するのがプロフェッショナルである」という言葉を思い出し、落ち着いて実践することができました。また、この禁煙指導の様子は全てビデオで録画されており、JABSOM の先生方によって良かった点やできていなかった項目について事細かくフィードバック

され、このフィードバックはこれから日本での医療面接でも役立てて行こうと感じました。

ワークショップを終えて

ハリケーンの影響で残念ながら予定されていた全てのプログラムに参加することはできませんでしたが、短い間でも英語で PBL や手技のような実践的な実習を多く積むことができたことは、私にとって大きな経験になった様に思います。

一方、何度か自分の医療及び医療英語の知識の乏しさを痛感する場面もあり、この悔しさをバネに今後の CBT, OSCE, そして 5 年次の臨床実習に向けて更に勉学に励んで行きたいと思います。

このワークショップを通じて出会った JABSOM の先生方や学生達、模擬患者の方々は拙い私の知識や英語力に対してみなさん温かく指導してくださり、ハワイの人々の優しさに触れることができました。また、他の大学から来ている学生達との交流は刺激的で、これからもこの出会いを大切にしていきたいと思います。

最後に、今回ワークショップへの参加にあたりご支援いただいた佐賀大学海外研修支援事業、医学部同窓会、佐賀大学後援会の方々、佐賀大学国際交流事業部の先生方、JABSOM の先生方に心より感謝申し上げます。

2018 Summer Medical Education Institute student workshop in UH-JABSOM

研修報告書 # 3

僕は 2018/08/20～22 で行われたハワイ大学医学部 Summer Medical Educational Institute という研修に参加して来ました。本来 8/20～24 の日程の予定であったが、今年は珍しく hurricane がハワイ諸島に接近してしまったため残念ながら短縮してしまいました。

【1 日目】



授業は morning story から始まります。その日のテーマ(この日は「病院での初めての Code Blue の経験」)について Damon Sakai 先生の過去の実体験を語ってくださる時間です。5～10 分程度ですが、多くの教訓を得られました。ハワイ大学よりも授業で教える内容の多い日本では時間的に厳しいかもしれませんが、医学部は人間性の教育も重要ですから、導入できるなら佐賀でも取り入れるのがよいように思いました。

次にマネキンを使った身体診察の練習がありました。まず、どのような挨拶で診察を始めたらいいいのかを学びました。そのマネキンは会話ができるため、実際の患者さんのように接し方を体験する事が出来ました。また、聴診器を使ってみる実習が続きました。そのマネキンは呼吸器や循環器に障害のある患者さんのモデルで、実際に音を聞く事が出来ました。夏休みまでに医学科三年は呼吸器や循環器の授業は終わっていませんが、独学でかじっていたおかげで少しは理解できました。

昼食では welcome party があり、ハワイ大学の学生さんと交流を深め始める事が出来ました。

午後は PBL の実習でした。シナリオは佐賀のものよりも典型的で単純なものでした。ハワイ大学では学習の軸が learning issue の自己学習なので、症例に触れ医師の思考回路を学ぶことよりも、根本的な自己学習課題を抽出することを意識しているのだと感じました。

【2日目】



この日も **morning story** から始まります。この日のテーマは「**motivation**」で、**Damon Sakai** 先生の高校時代に、彼の当時の先生からかけられた言葉によって勉強を頑張ろうと志した話をして頂きました。

次に、禁煙指導の仕方についての授業があり、どのように話を切り出し、どのような話を聞き、どのような協力をして行けばよいのかを学びました。これは3日目の医療面接にて活かされることになります。今回の授業の対象は禁煙に対してモチベーションの高い患者さんでした。呼吸器疾患があるなど禁煙させなくてはならないがモチベーションの低い患者さんの場合、どのようにアプローチして行くのか気になりました。

午後はPBLの2症例目でした。昨日今日と **step2(PBLの自己学習の時間)**にて用いるメディアがネットサイトでした。佐賀(日本?)では情報の信頼性の問題からその手法は好まれません、ハワイやアメリカでは気にされていないのかと思い聞いてみたところ、「今回は時間やアクセス権限の問題で普通のサイトを使うことになったけれど、通常は教科書や信頼できるものに限ったインターネットサイトを使うよ」と言われ、メディアリテラシーはアメリカと日本とで共通であることがわかりました。ただ、日本語と英語ではそれぞれの言語を利用する専門家の人口が大きく違うことに比例して、日本よりも信頼できるソースが沢山あることもわかり、英語力の重要性も感じました。

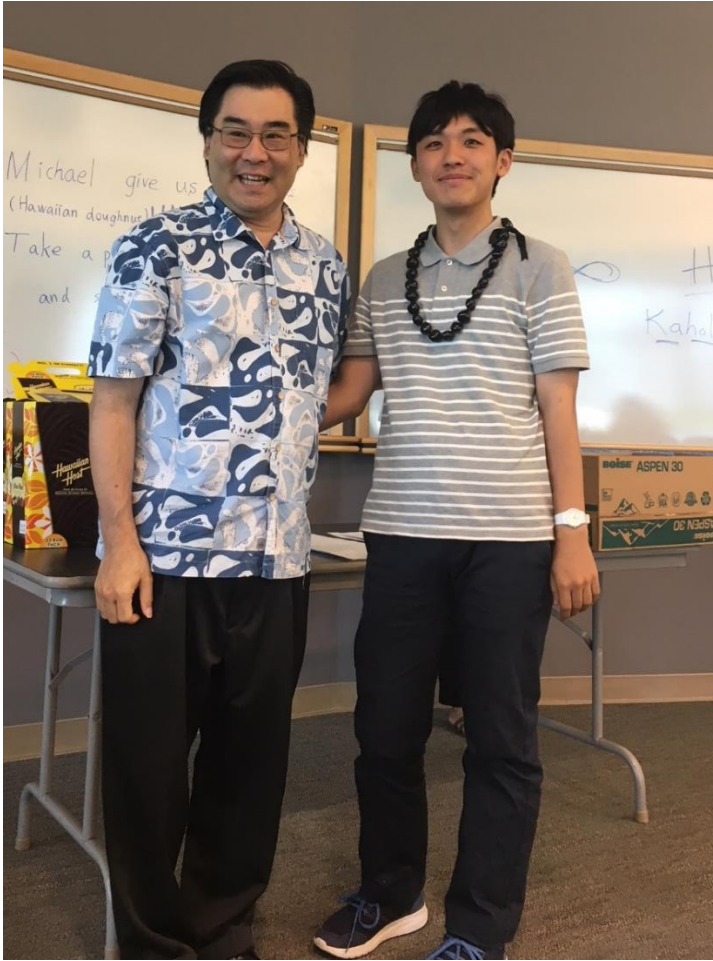
【3日目】

この日頃から風が強くなり始め、**hurricane** の話題がどんどん大きくなってきました。さてこの日も **morning story** から始まりました。話題は3つありました。どれも、医師や医学生としての教訓というより、一人の人間としての道徳心や人間性を考えさせられるものでした。

次に肺音の検査の授業があり、聴診の手技を学びました。恐らく4日目の息切れの模擬患者さんに対する医療面接で必要になる知識でした。患者さんに対する気遣いやかけるべき言葉など、医療行為以前のことを学びました。**OSCE**のある日本では手技の内容に重点を置かれがちですが、一人の医療者として人間性、マナーを磨く上では非常に重要で、出来ることなら日本でも取り入れるべきと思いました。

ここでクラスが半分に分かれて、二つの授業を入れ替わりで受けました。まず **culture activity** としてフラダンスを学びました。**Hukilau** という漁の様子を歌った曲に合わせた踊りをみんなで覚えました。一見簡単そうに思えましたが実際にしてみると足使い腰使いが難しい事がわかり、難なくしているように見えたプロの方の技術に感心しました。現地の文化と触れ合える機会も良い経験でした。

午前最後は模擬患者さんに対する医療面接でした。これまで学んできたことを基に 10 分程度、禁煙に悩む初診の模擬患者さんと話をしました。難しくもありましたが、ちゃんと会話を楽しむことができました。何より、英語で診察を行えたことはかなりの自信につながりました。



今回の研修の内容はここまでになります。これ以降のプログラムは、Hurricane 接近によりハワイ大学が休校になったことで中止となってしまいました。予定では注射の実習や、身体診察の手技、バイタルの取り方など興味深い内容が用意されていましたが、残念です。

この研修全体を通して、授業の内容はもちろん、自己学習に大事な姿勢を学びましたし、英語力が多少なりとも向上したり新たな仲間と出会ったりと多くの得るものがありました。ここで得たものを生かして今後の学習に臨みたいと思います。

【写真】

1. ハワイ大学医学部の前にて。
2. 現地学生や同プログラムに参加した日本の他大学の学生たちと夕食会。
3. プログラム終了式にて Damon Sakai 先生と共に。